

「地域資源」について

四国経済連合会参与(四国森林管理局長)

中山 尊裕



新しい年が始まりましたが、米国に端を発した金融危機が我が国の雇用・消費などの社会経済にも悪影響を及ぼし、景気は後退局面に入っています。こうした我が国の社会経済情勢の下、国有林の管理経営を担っている私どもは、民有林の行政・業務を担っておられる県担当部局、関係機関と一緒に地域での雇用と経済の改善に向け少しでもお役に立ちたいと思っています。

さて、現在、四国では、「四国圏広域地方計画」の策定が進められています。四国圏を取り巻く情勢を踏まえ、四国圏の強みを活かし、弱みを克服し、地域として発展していく将来像と戦略的取組を検討していくものです。この計画案の中で広域プロジェクトの一つとして、『緑の島四国』の環境を守る美しい森林づくりプロジェクトがあります。四国には、有形、無形の多数の地域資源がありますが、四国4県の共通の資源として「森林」があります。山村、中山間地域の貴重な資源でもあり、これを活用して地域の活性化を図ることが重要になっています。

森林・林業を取り巻く情勢は、昨年からの京都議定書の第一約束期間が始まり、また、北海道洞爺湖サミットでも議論されるなど、地球温暖化防止をはじめさまざまな観点からその大切さと森林整備の重要性が認識されています。私ど

もとしては、間伐等の森林吸収源対策をより一層加速・定着させるとともに、官民一体となって進められている「美しい森林づくり推進国民運動」が更に地域に根づくよう関係者の協力をいただきながら努力しているところです。また、森林管理局と4県は「四国の森づくりに関する共同宣言」を締結し、多面的機能発揮に向けた森林整備、木材利用、森林環境教育の面での協力推進と11月11日を「四国山の日」と定め、この共同宣言の下、地域住民の方々、NPO関係者などと一緒に四国の山と山村を元気にするさまざまなイベント、取組を行っています。

「ないものねだりからあるもの探し できるもの探し」(地元学の考え方)。地域にある宝物を探し、それを糧としていく。「地域資源」を大切にし、その良さを見直し、最大限活用していく知恵を動かしていくことが、今、求められています。「森林」は、木材の地産地消、心身を癒やすセラピー効果を活用した都市との交流、木質バイオマスなど無限の可能性を秘めた「地域資源」です。

私ども国有林関係者も地域の皆様方と一緒に、「森林」というこの大事な地域資源を活かし、四国という地域が元気になるよう頑張っていきますので、今後ともご支援ご協力を宜しくお願いします。